

横浜市感染症発生動向調査報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行警報が発令されています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

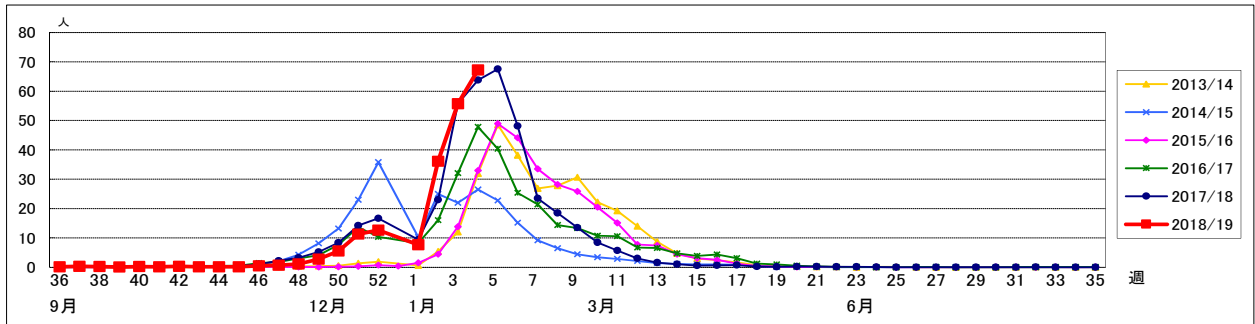
腸管出血性大腸菌感染症	1件	急性脳炎	5件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
マラリア	1件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	5件	梅毒	5件
アメーバ赤痢	3件	百日咳	22件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	風しん	31件

- 腸管出血性大腸菌感染症:インドでの経口感染と推定されるO111の報告が1件ありました。
- E型肝炎:経口感染と推定される報告が1件ありました。
- A型肝炎:インドでの経口感染と推定される報告が1件、同性間の性的接触による報告が1件ありました。
- デング熱:フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- マラリア:トーゴでの蚊からの感染と推定される熱帯熱マラリアの報告が1件ありました。
- レジオネラ症:肺炎型の報告が5件あり、感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が3件(同性間および異性間の性的接触が1件、経口感染が2件)ありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎:インフルエンザ脳症が疑われる報告が4件(幼児2件、小児1件、40歳代1件)、病原体不明の報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:70歳代のA群の報告が1件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:80歳代の報告が2件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:乳児の報告が3件(ワクチン接種あり)、60歳代の報告が4件(ワクチン接種なし2件、不明2件)、70歳代の報告が3件(いずれもワクチン接種不明)、80歳代の報告が4件(ワクチン接種なし2件、不明2件)ありました。
- 水痘(入院例に限る):90歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。
- 梅毒:5件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染経路は、異性間の性的接触が4件、同性間の性的接触が1件でした。男性2件、女性3件でした。
- 百日咳:10歳未満では乳児が5件(ワクチン接種あり2件、なし3件)、小児が8件(ワクチン接種あり7件、不明1件)の報告があり、10歳代で7件(いずれもワクチン接種あり)、40歳代で2件(いずれもワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん:検査診断例30件、臨床診断例1件が報告されています。乳児が1件(ワクチン接種なし)、幼児が1件(ワクチン接種あり)、20歳代が10件(ワクチン接種なし3件、不明7件)、30歳代が6件(ワクチン接種なし2件、不明4件)、40歳代が6件(いずれもワクチン接種不明)、50歳代が5件(ワクチン接種なし1件、不明4件)、60歳代2件(いずれもワクチン接種不明)でした。男性24件、女性7件でした。

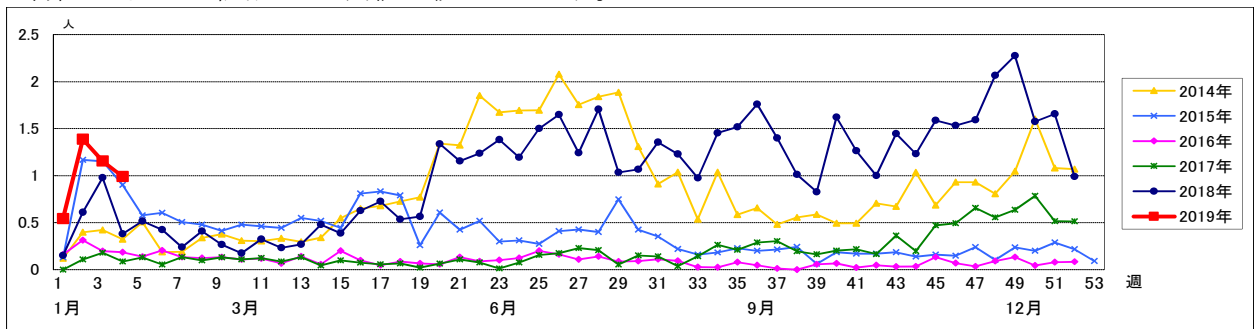
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ【流行警報発令中】:第48週にて定点あたり1.07にて流行開始、第51週にて11.31にて注意報発令、第2週にて36.08にて警報発令基準値(30.00)を上回りました。さらに第3週では55.73、第4週では67.25と増加し、例年と比べて大幅に報告数が増加した昨シーズンの同時期の報告数を上回っています。

報告週対応表	
第52週	12月24日～12月30日
第1週	12月31日～1月6日
第2週	1月7日～1月13日
第3週	1月14日～1月20日
第4週	1月21日～1月27日



2 伝染性紅斑:2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移していましたが、第48週に2.07にて警報発令基準(2.00)を上回りました。2019年第1週以降は警報発令基準を上回っていませんが、第4週も0.99と依然として高値が続いています。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:1件	淋菌感染症	男性:5件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第52週	第1週	第2週	第3週	第4週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	1.50	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点57件、内科定点29件、基幹定点15件、眼科定点5件で、定点外医療機関からは8件でした。

2月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離株67例と遺伝子13例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(1月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	イン フル エン ザ	咽 頭 結 膜 熱	感 染 性 胃 腸 炎	イン フル エン ザ 脳 症
インフルエンザ AH1pdm09型		22 2			1
インフルエンザ AH3型	1	42 6			
アデノ 3型			1		
ノロ				5	
合計	1 0	64 8	1 0	0 5	1 0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

「菌株同定」依頼は、基幹定点から劇症型溶血性レンサ球菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、肺炎球菌2件、腸管出血性大腸菌1件などとなり、非定点からの依頼は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件ありました。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、肺炎球菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌4件等の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点から熱帯熱マラリア1件、保健所から喀痰のレジオネラ属菌の検査依頼が4件ありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌3件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter aerogenes</i>	
	カンピロバクター属菌	1	<i>Campylobacter jejuni</i>	
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund	
	基幹定点 グラム陰性桿菌	1	<i>Helicobacter cinaedi</i>	
	腸管出血性大腸菌	1	O111:H- VT1	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌	
	肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23型、UT型	
非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> 、 <i>Enterobacter aerogenes</i>	
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (2)	
	腸管出血性大腸菌	1	O128:H10 VT1	
	肺炎球菌	4	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能	
	劇症型溶血性レンサ球菌	4	A群溶血性レンサ球菌TB3264(2)、T11(1)、 G群溶血性レンサ球菌(1)	
	インフルエンザ菌	2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能	
分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 基幹定点	熱帯熱マラリア	全血	1	<i>Plasmodium falciparum</i> (LAMP法)
保健所	レジオネラ属菌	喀痰	4	不検出(培養法)
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	3	A群T1、A群TB3264、A群T型別不能	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】